

## 「裂き織で岩手から世界へ

## ）付加価値を生み出す地域実践（



株式会社幸呼来 Japan  
(盛岡市)

代表取締役

いしがら えつ  
石頭 悦

## 裂き織に魅せられて

裂き織との出会いは、今から10年ほど前になります。当時勤めていた会社が入会する岩手県中小企業家同友会の勉強会の一環で、特別支援学校の見学に行きました。その時、初めて見る「裂き織」の美しさに魅了されました。

裂き織を知ってから、地域の道の駅や産直で裂き織を目にしますが、生徒さんの織る裂き織のほうが緻密で美しいと感じ、障がいがあっても素晴らしい能力があることをもつと様々な人に知ってもらいたいと思い、生徒さんの織った裂き織でバッグを作って持ち歩くようにしました。

## 事業化への道

ある時、「裂き織を事業化することで、障がい者に利益を還元できるのではありませんか？」との問いをいただきます。その当時、

私は勤め人でしたので、事業化するにも勝手にできるはずはありません。また、資金の調達など課題は満載でした。ただ、「いつかは裂き織を事業化したい」と、夢を語っておりました。

口に出していると様々な方面から助言があり、「盛岡市緊急雇用創出事業」の情報も頂戴します。勤めていた会社の社長に盛岡緊急雇用創出事業に応募する事業化案を相談したところ、「地域や障がい者のためになることなのだから、やってみなさい」と背中を押され、神にもする思いで盛岡市に企画書を提出しました。私の思いが通じたのか、運よく企画が通り事業化できる運びとなり、平成22年7月、会社の2階会議室を間借りして障がい者2名、健常者1名それぞれと私の4人で裂き織事業がスタートします。

## さんさ踊りの浴衣に着目

事業開始後、裂き織の材料で悩みます。色々な方から古い着物や端切れを頂き織ってみますが、どうも私のイメージしていたものと違います。もっとカラフルで若い人からも支持されるような裂き織はできないだろうか。

頭を悩ませている時に、盛岡さんさ踊りがありました。パレードを見てみると、去年と違う浴衣を着ている企業がチラホラと。使い古した浴衣はどうなっているのだろう。さんさ踊りの浴衣で裂き織を織れば、カラフルで可愛い裂き織ができるし、盛岡さんさ踊りのお土産にもなるに違いない。と、意を決し参加団体に浴衣の寄付をお願いしました。初年度、10社から600枚程の浴衣を頂戴し、「さんさ裂き織り工房」ブランドが誕生しました。

## 会社設立へ

順調に商品化も進み、販売店も増えていきました。そんな時に東日本大震災があり、裂き織事業の継続が難しくなりました。震災の次の日、一般社員が出社しない中、裂き織事業部の障がいのある社員だけが出社してきたことを思うと、「裂き織事業部は閉鎖します」とは、伝えることができませんでした。そこで、私が会社を辞め、裂き織事業を引き継ぐこととし、平成23年9月、株式会社幸呼来Japanを設立しました。



作業場での裂き織り風景

## 世界へ向けて

当初、「さんさ裂き織り」のみのブランド展開でしたが、全国をターゲットに見据え新ブランド「パノレーチェ」を作りました。これは、企業から出る余り布を裂き織にして自社製品としたブランドです。そしてパノレーチェの動きが発展して、企業の余り布を裂き織として生地納品し、企業側で新商品を作り市場へ流通させる取り組みの「さつこらProject」が誕生します。

「さつこらProject」のミッションは、

- ① 伝統技術「裂き織」の継承
- ② 産業廃棄物の削減
- ③ 障がいの者の労働力と言えます。

地域に昔から伝わる裂き織の技術を、後世に伝えること。企業から出る、捨ててしまう余り布を活用することで、産業廃棄物を削減。そして地域の障がいのある方達の仕事に繋げることです。現在、弊社のみならず地域の福祉施設と連携し協働で作業を行っております。また、このプロジェクトでは国内外の企業との取引が始まっており、昨年からオニツカタイガーとのコラボで世界のオニツカ直営店でSAKIORIシリーズのシューズが発売されております。

## 裂き織の産地に

「さつこらProject」で沢山の企業



さんさ裂き織り工房ブランドの製品

と取引が進み、大きく成長することで、SAKIORIが世界の共通語とならないか。さらには、「裂き織と言えば盛岡」というイメージが出来上がり、盛岡を裂き織の産地として確立できないか。夢は大きく広がります。最近では手軽に織物が楽しめる段ボール織機を開発し、ワークショップを通して小さいお子様からお年寄りまで裂き織を身近に感じてもらえるような活動も行っております。

世界中のみんなに幸せが来ますように！  
幸呼来Japanの挑戦はまだ続きます。